

1 校訓		2 教育目標	
「至誠」「創造」「力行」		1 明朗にして、心豊かな人間を育てる。 2 知性ある、創造力豊かな人間を育てる。 3 自主性のある、個性豊かな人間を育てる。	
3 スクール・ミッション			
3つの校訓「至誠」「創造」「力行」に基づく資質・能力を育成し、自主的・積極的に活動することができる生徒、高い目標に挑戦するために、自ら課題を見つけ解決することによって社会の中で活躍することができる生徒、国際的な視野でコミュニケーションを取ることができる生徒を育成します。			
4 スクール・ポリシー			
(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力） 本校は、3つの校訓に基づく資質・能力の育成を目指します。具体的には、「至誠」（生きる力・態度の育成）に基づく「協働力」「コミュニケーション能力」「多様性・他者理解力」、「創造」（思考力・判断力・表現力の育成）に基づく「発想力」「主体性」「論理的思考力」、「力行」（基礎的な知識・技能の習得）に基づく「基礎的な学力」「実践力」「課題解決力」を生徒に身に付けさせます。		(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針） 本校は、探究活動、各授業における主体的・対話的で深い学び、及びICT機器の活用等で学習環境を整え、生徒の学力の向上を図ります。また、進路探究を基盤とした取組により、自らの将来を考えさせ、生徒の進路実現を図ります。さらに、学校生活全般をとおして、生徒の人権感覚の涵養及び自身の健康を意識した体力向上を目指します。	
		(3) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針） 本校は、学習、学校行事、部活動に努力したいと考えている、元気のよい生徒の入学を期待しています。特に、何事にも積極的に取り組む中で、自ら課題を見つけ、それを解決していきながら自信をつかみたいと思っている生徒、中学生時代にリーダーとしての経験があり、何事にも頑張ることのできる生徒の入学を期待しています。	
5 中期目標と方策			
<p>本校は今年度50周年を迎える。これまで、教育課程の編成等、教育活動を充実させるための方策を進め、不断の学習指導の改善と進学指導の充実により、着実に進学実績を向上させてきた。また、生徒が主体的に作り上げる若松祭（体育部門・文化部門）等の学校行事や加入率の非常に高い部活動への取組を通して、学力のみならず人間力を高め、自らの進路希望の実現につなげるとともに、調布生であることを誇りにできる学校づくりを進めてきた。今後も、これらの取組を基盤とつづ、東京都教育委員会の施策（「AIを活用した英語教育の充実事業」「海外学校間交流推進校」「外部検定試験実施校（全学年コース）」等）を活用し、グローバル人材育成の基盤となる英語力の育成を一層推進する。あわせて、情報活用能力の向上にも力を入れ、将来必要とされる力を育む教育の充実を図るため、次の目標に全職員で取り組んでいく。</p> <p>(1) 授業改善と進路指導の充実 ○授業評価アンケートを実施し、観点別評価による「指導と評価の一体化」の実現に向けた授業改善を図るとともに、「2050東京戦略」に基づき、教育ダッシュボード等を活用するなどDX化を推進し、教科指導の在り方やデジタル技術を活用した指導方法を研究する。また、組織的・系統的に展開している総合的な探究の時間の取組の成果として、探究学習発表会の内容充実を図る。 ○進学指導等の充実事業推進校として、長期休業日中の講習・補講、自習室等の活用励行、学習時間調査などを計画的に実施し、自学自習の習慣を定着させるとともに、細やかな進路相談体制を構築する。また、進路ガイダンスなどをキャリア教育に生かし、個に応じた進路指導を実施する。 ○外部検定試験実施校として、計画的に英語4技能検定等に向けた取組の充実を図り、「東京グローバル人材育成指針」を参考に「海外学校間交流推進校」予算を有効活用し、グローバル社会の中でチャレンジできる力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 活気ある教育環境の継続と学校行事や部活動の充実による生徒の主体性・協働性の育成 ○挨拶を励行し、朝の校門での見守り・挨拶指導を全校体制で実施する。また、生徒の生命を守るための安全指導を徹底する。 ○自他の人権意識を高め、SNS等の使用上のマナーやルールを守る指導の徹底を図り、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を実践し、生徒が安心して生活できる教育環境と規範意識を育てる。 ○委員会活動を活性化するように支援し、生徒の主体性・協働性を育成するとともに、活気あふれる学校行事を実施する。また、部活動への加入を奨励し、組織的な支援により成功体験を積み、自己肯定感や達成感を高めるとともに、部長等のリーダー性を高めるような取組を実施していく。</p> <p>(3) 広報活動の充実 ○本校の魅力を発信するため、ホームページの内容や動画配信などを充実させるとともに、学校案内・ポスター等を効果的に活用して広報活動を展開する。また、本校で実施する部活動体験や、学校見学会・学校説明会の内容を充実させる中で、生徒が主体的に見学会・説明会に関わる機会を設け、生徒の主体性や表現力を育成する場としても活用していく。なお、外部実施の個別相談会、中学校への出前授業や進路説明会等も活用する。 ○生徒会や部活動等の単位での地域行事やイベントなどへの参加を励行し、児童館や特別支援学校等との交流を進め、地域に根付き、地域に愛される学校であることを推進する。</p> <p>(4) 周年行事の成功に向けた体制構築と教育環境整備に向けた取組 ○50周年行事に向けて、「周年行事実行委員会」を立ち上げ内容の充実を図る。PTAや同窓会、つばみ会（PTAのOB・OG会）等と共同して進行していく。 ○経営企画室と連携し、施設面では空調工事において教育活動への影響を最小限に進行させる。また、様々な教育委員会の施策による予算や自立経営予算等を連動させて有効活用していく。 ○「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、組織的な業務縮減に取り組み、学校運営の改善を図る。</p>			
領域	6 今年度の取組目標と方策		7 重点目標と数値目標
ア 学習指導	目標	デジタルとリアルを融合した教科指導の推進と、早期段階における学習時間の確保	※〔〕内の数値は令和7年度数値
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの視点を元にした授業評価アンケートを1学期末・2学期末に実施し、教科会等で協議し授業改善に努め、指導方法や授業内容の充実を図る。 観点別評価を教科ごとに検証し、「指導と評価の一体化」の実現を目指し、一層工夫を図る。 各教科課題や復習・予習の励行、小テストの実施など意図的・計画的に実践し、自主的に学習に取り組める習慣を身に付けさせる。また、自習室等の活用励行、デジタルツールを活用した学習時間調査などを計画的に実施し早期段階から学習習慣を定着させる。 教育ダッシュボード等を活用して、入試や模擬試験、定期考査等の組織的な分析を実施する。 教員の相互授業見学実施など授業研究を充実させ、授業改善に資する。 土曜授業や習熟度別授業を展開し、生徒一人一人が高い目標に挑戦できる学力の向上を図る。 各教科で言語活動の充実を図り、司書教諭を中心に学校司書とも連携し読書活動を推進する。ICT活用委員会を中心として教育活動のDX化を図る。また、リアテンド等も有効活用し、教育の働き方改革を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価質問項目3「学習指導」 ・生徒の肯定的評価 83%〔81〕 ・保護者の肯定的評価 90%〔88〕 ○家庭学習時間（1日平均〔自習室等含む〕） ・1学年 90分〔71.9〕 ・2学年 90分〔73.6〕 ・3学年 180分以上〔171〕
イ 生活指導	目標	社会規範の定着と自主性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価質問項目6「規範意識」 ・生徒の肯定的評価 97%〔97〕 ○学校評価質問項目9「相談体制」 ・生徒の肯定的評価 85%〔81〕 ・保護者の肯定的評価 85%〔79〕 ○いじめ重大事態の件数 0件〔0〕
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 朝の校門での挨拶指導を全校体制で展開し、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。 生活指導指針に基づき指導内容の共通化を図り、学校生活のあらゆる場面で時間を意識した行動の徹底を図る。また、身だしなみ等は社会に出てから困らないよう、マナーの理解を深めさせるよう、年間を通して組織的に指導する。 多様性を尊重する視点から、校則の見直しや、女子のスラックスの着用などの変化に対応しつつ、調布南高校のあるべき姿を生徒、保護者、教職員が共有できるよう対話を継続していく。 人権尊重の観点から、適切にSNSルールの徹底や情報通信機器を使用するための情報モラルの育成を図る。 いじめ等に関する情報について、学校生活における生徒観察、学年会などを通してさいなこでも共有し、毎学期いじめアンケートも活用して早期発見に努める。いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会などを活用して、組織的に迅速に対応し解決を図る。 自殺防止に向けた取組を徹底するために、生命の大切さを伝え、連休前後や長期休業日前後などを重点的に、校内組織と担任間で生徒情報を共有する。また、スクールカウンセラーや外部機関なども積極的に活用する。 「生徒指導提要」を踏まえ、不登校・中途退学の未然防止や早期支援のため、学校生活全般の充実度を高めるとともに学年、生徒部等の情報を密にする。 「特別支援教育の推進について」「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」の趣旨を踏まえ、特別な支援を必要とする生徒の情報を校内で共有し、必要な時は特別支援教育コーディネーターを通じて関係部署と連携する。 	
ウ 進路指導	目標	社会の中で活躍し、挑戦できる精神の醸成を目指した進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率 90%〔90.2〕 ○長期休業中の講習・補習 ・講座数 50講座〔50〕 ・受講延べ人数 2600人〔2661〕 ○国公立大学・大学校合格者 20人〔7〕 ○早慶上理・GMARCH等の難関私立大合格者 100人〔94〕 ○英検合格者 ・2級 200人〔208〕 ・準1級 8人〔8〕
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 進路希望の100%実現に向け、分掌、学年、教科の連携を一層強化した組織的な指導と、「進路ノート」や進路通信「M-PRIDE」などを活用した系統的な進路計画に基づいた指導を推進する。 組織的な探究型学習を展開して2年探究学習成果発表会の内容充実を図り、キャリア教育推進への手立てとする。 「海外学校間交流推進校」予算を活用し、東京外国語大学の留学生と交流するなどグローバル人材育成に向けた取組を推進する。 進路希望調査（5月・11月）の分析や模擬試験分析会を着実に実施し、学校や学年の全体像を把握するとともに、個に応じた指導を推進する。 外部検定試験実施校として、実用英語技能検定を全校生徒に受検させ、生徒全員が英検4技能のスコアを取得することで、英語の早期学力形成を図るとともに、グローバル社会の中で挑戦できる資質・能力を身に付けさせる。 進路指導部が主体となり、長期休業期間中の講習・補習を充実させ、組織的・計画的に実施する。 保護者会や保護者向けの進路説明会や講話、二者面談や三者面談などの実施により、保護者との情報共有を密にすることで、家庭との連携を深めた指導を推進する。 	
エ 特別活動	目標	社会性を育む特別活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価質問項目7「行事・部活動」 ・生徒の肯定的評価 92%〔92〕 ・保護者の肯定的評価 94%〔94〕 ○部活動加入率 99%〔99.7〕 ○部大会・コンクールにおけるベスト32相当への進出 6部〔4〕
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の意欲的な取組を支援し、学校行事や宿泊等の学年行事、生徒会活動、委員会活動、部活動などを通して主体性、協調性等を育み、学校生活の満足度を高める。 部活動指導員等を活用して指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づき、「生徒にとって望ましいスポーツ環境・文化芸術環境を構築する」ための部活動運営を行い、高い部活動加入率と活動の活性化を目指す。 部活動のガイドラインに沿った活動で、充実した部活動と家庭学習確保のバランスを自己管理できるように指導し、退部することなく部活動をやりきる力を育む。 部活動保護者会等を通して、保護者への情報提供と連携を図り、生徒一人一人が高い目標を持ち集中して取り組めるようにする。 	
オ 健康づくり	目標	心身ともに健康で、自己の挑戦を支える体力増進とそれらを支える環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価質問項目8「防災・安全指導」 ・生徒の肯定的評価 90%〔87〕 ・保護者の肯定的評価 90%〔88〕 ○生徒の自転車乗車時におけるヘルメット着用率 100%〔100〕 ○救命救急法の講習や交通安全教室、SOSの出し方に関する教育の実施 1回以上 ○いじめ防止や、体罰防止研修実施 2回以上
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に授業や特別活動、部活動等において、生涯に渡ってスポーツに親しむ態度を育てるとともに、体力テストの結果を活用した基礎体力向上・健康増進に向けた取組を推進する。 健康講話や交通安全教室等の実施により、主体的に健康・安全に留意する習慣を身に付け社会生活の中での実践を促すとともに、交通ルールを守り、自らの命を守るため、自転車乗車時のヘルメット着用の指導を徹底する。 避難訓練や地域防災訓練等、外部機関とも連携し、自助・共助の精神を養い、防災に関する実践力を高める。 リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰り等学校生活における環境を整理・整頓し校内美化の徹底を進める。 各種感染症の拡大に備え、感染防止の意識と習慣を維持するとともに、日頃から学校医等との連携を密にする。 スクールカウンセラー等による「SOSの出し方に関する教育」を実施するなど、専門家や家庭と連携した心の健康づくりと相談体制の強化を図る。 	
カ 広報活動	目標	意図的・計画的な広報活動、地域貢献への取組強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの更新回数 500回〔423〕 ○学校見学会来校者 1350人以上〔1384〕 ○学校説明会来校者 1650人〔1525〕 ○中学校第一希望調査 1.50倍〔1.20〕 ○外部での募集に向けた広報活動、説明会・個別相談会への参加件数 20回以上〔18〕 ○推薦に基づく選抜応募倍率 2.0〔1.48〕 ○学力検査応募倍率 1.75〔1.50〕
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 学校ホームページの内容を充実させ、生徒の活躍をリアルタイムで発信する。 学校見学会や学校説明会、トライ＆チャレンジ（部活動体験および授業体験）を計画的に開催し、各教員が様々な形で本校の魅力を直接中学生へ伝える取組を行う。 東京都、各区や各市、NPO等が主催による外部説明会・個別相談会に積極的に参加し、本校の魅力発信に努める。 中学校に出向いて、上級学校説明や出前授業などに積極的に参加し、本校の魅力や特徴をアピールすることによって、本校を第一希望とする生徒の掘り起こし取組を活性化していく。 生徒会や部活動などを中心にボランティアマインドを醸成し、地域の小・中学校、特別支援学校等の行事、地域のイベントなどへ参加し、調布市を代表する高校を目指すとともにその取組を広く周知していく。 	
キ 学校経営組織体制	目標	組織としての課題解決に向けた対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価質問項目2「学校生活充実度」 ・生徒肯定的評価 92%〔92〕 ・保護者肯定的評価 95%〔94〕 ○勤務時間外在校時間の月45時間超えの月毎延べ人数 120人〔153〕
	方策	<ol style="list-style-type: none"> 主幹教諭を中心に各分掌、学年の課題を調整、整理し、企画調整会議の機能を活性化させ課題解決に取り組む。 体罰・不適切な指導の防止、個人情報等の不適切な取扱いの防止、生徒・保護者とのSNS等での連絡に関する確認、通勤届と通勤方法の確認など定期的な服務事故防止研修と適時適切な指導により服務事故の未然防止を徹底する。 昨年度の準備委員会を発展させ、周年行事実行委員会を立ち上げ、PTAや同窓会、つばみ会（PTAのOB・OG会）と連携して進行、成功させていく。 企画調整会議、職員会議を一層効率化させるとともに、部活動指導員やティーチング・アシスタントの導入を進め、業務縮減に向けた取組を推進する。また、教職員の育児・介護を支援するとともに、勤務時間に対する意識改革を進め、月毎の勤務時間外在校時間45時間超えの職員数を着実に減少させる。教員と経営企画室との連携を密にして、空調工事等の業務を円滑に進め、海外学校間交流推進校や自律経営予算の有効活用、学校徴収金の適正な執行などの効果的な経営参画を促進する。 	